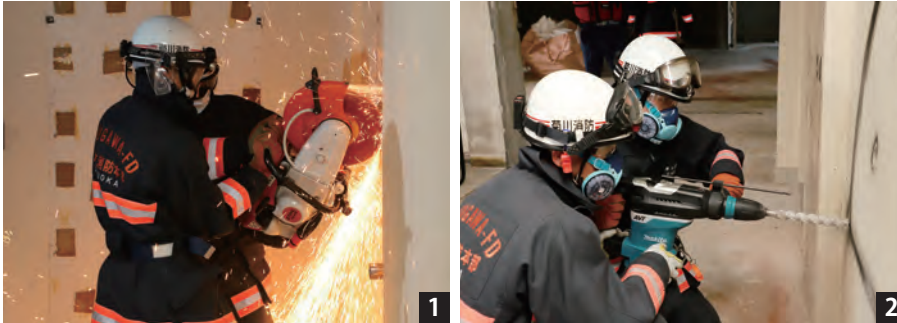


現 大規模災害を想定した訓練 場で防災資機材の使用方法を確認



1



2



3



4



5

▲1 エンジンカッターによるドア切断 2 ハンマドリルと電動ハンマを使用し、コンクリート壁に穴を開ける 3 機材の使い方や作業の手順を確認する 4 火災が発生した想定で消防車が建物前に駆けつける 5 建物2階へ救助に向かう

6月9日、解体工事中のプラザけやき南館で、市消防署が崩壊したコンクリート建物から要救助者を救出することを想定した訓練を実施しました。大規模災害が発生した際に必要となる、防災資機材の使用法の習得を目的に実施され、市消防署員10人が参加しました。

建物内に進入するため、1階のコンクリート壁に工具を使って穴を開け、内部に進入。また、エンジンカッターで鉄製の扉を切断する訓練では、激しい火花をもちもせず作業を続けました。実際の建物を使用した貴重な機会を生かし、普段使わない機材の活用を体験できる場となりました。

命 救命講習会 を守るために先生も学ぶ

6月4日、河城小学校で救命講習会が行われました。教職員が救急救命士から心肺蘇生法やAEDの使い方を教わることで、正しい救命処置を習得することを目的に、毎年水泳の授業が始まるこの時期に実施しています。

同校教職員18人は、市消防署員から救命処置の流れを教わった後、訓練用の人形を使って胸骨圧迫やAEDの使用方法を再確認しました。児童への対応や救急車の手配、救急隊への引き継ぎなども行われ、本番さながらの緊張感の中、手際よく対応していました。



▲万が一を想定して、AEDの操作手順を確認する教職員

子 教育現場に図書の寄附 どもたちに本のプレゼント

丹野報徳社から6月3日にひがしこども園へ、4日に小笠東小学校へ図書が寄贈されました。園と学校がそれぞれ希望する図書30冊ずつを、同社の水野守理事長らが代表園児や児童に手渡しました。

また、6月22日には、市役所本庁舎で河東財産区管理会からの寄附金贈呈式が行われました。同会の今坂哲夫会長(写真2中央)と落合昭徳副会長(写真2左)から目録が手渡され、長谷川寛彦市長から感謝状が贈られました。寄附された100万円は、市内小中学校の図書の購入に活用されます。



1



2

▲1 代表園児に絵本を手渡す水野理事長ら